

ビール発祥の地・横浜から日本のビールの歩みを語る

有隣堂の最新刊『横濱麦酒(ビール)物語』 6月1日発売

日本初のブルワリー誕生からクラフトビール最前線までトリビアネタが満載！

株式会社有隣堂（本社：神奈川県横浜市 代表取締役社長：松信 健太郎）は、6月1日、当社出版物の最新刊として、『横濱麦酒(ビール)物語』を発売します。著者は、横浜出身のフリーライター 友清 哲氏、都内でBARを経営するなど、無類のビール好きでもあります。本書では、ビール発祥の地・横浜を中心に、日本初のブルワリー(ビール醸造所)の誕生からクラフトビール最前線まで、様々な角度で日本のビール産業史を語っていただきました。新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、人々との語らいの場が賑わいを取り戻してきている今、酒席の話題を盛り上げるトリビアネタが満載の一冊をお届けいたします。

●書名：『横濱麦酒(ビール)物語』

●著者：友清 哲

●出版社：有隣堂

●定価：税込1,100円（本体1,000円＋税）

●体裁：新書判・本文192頁

●ISBN：9784896602401

●発売日：2023年6月1日予定

●取り扱い：有隣堂各店（一部店舗除く）、全国の書店

●内容：

古代メソポタミアで誕生したとされるビールが開港と同時に横浜に上陸しました。その後、横浜山手で工場生産が始まりました。本書では近年需要が増したクラフトビールなど様々なうんちくとともに、数多くの取材や資料を通して、明治から令和に至るビール産業史を紹介しています。

**著者：友清 哲（ともきよ さとし）**

1974 年生まれ。横浜市出身。フリーライター & 編集者。ルポルタージュを中心に著述を展開している。また都内で BAR を経営するなど、無類のビール好き・酒好き。著書に『日本クラフトビール紀行』、『物語で知る日本酒と酒蔵』（イースト新書 Q）、『一度は行きたい「戦争遺跡」』（PHP 文庫）、『怪しい噂 体験ルポ』、『R25 カラダの都市伝説』（宝島 SUGOI 文庫）、『作家になる技術』（扶桑社文庫）、『片道で沖縄まで - 憧れの沖縄移住を簡単に実現する方法』（インフォバーン）がある。

■担当編集者からのメッセージ

本書の読みどころは、横浜から始まった日本のビールの歩みを振り返りながら、言及している様々なトリビアネタにあります。初めてビールを飲んだ日本人についての考察、「ラガー」と「エール」の違い、キリンビールと坂本龍馬との関係、1 世紀半の時を経て発売されたペリー提督の子孫がつくったビールの秘密、などについてわかりやすく語っていただいております。一方、クラフトビールのルーツと言われる神奈川県厚木市の「サンクトガーレン」や、現在も積極的な企業活動をされている横浜の「横浜ビール」や「ロト・ブルワリー」なども詳しく取材しております。是非、ご高覧いただけますようお願い申し上げます。

■有隣堂の出版物 <https://www.yurindo.co.jp/yurin/tanko>